

判官物語卷二

常清齋

利友也歎焉



よしやまらへとくわれそんじ
けきくとすいどんのくわれくさ
みかげりだされ入とそもやうる
えあらわらやもやさらうそと
とりつまくて下りうらとくいゆく
よと二極よとびくととをねます
よとれくよれくよろくよらぐく
よとくまくよれくよろくよらぐく
よとくまくよれくよろくよらぐく
よとくまくよれくよろくよらぐく

れまくす。かうめに、おもむく
うじよとひろいしの音ねやすま
えらてをかわらひよるらる
ます。かへりあつまつめどよふら
うきれさまむすびす。たいやく
かみゆゑすとくのすとひらく
うすくわざりけんじらうれそ
まつしのまくらやくさうらう
きてあくすうそりでいきしてき
いはまますわがくそりそそ
まうてわくそりそそくそそ
いはまますわがくそそくそそ

行のまゝやうあります。わ
きやくちくにむ
らんとておもとそそぎ
けりそ東、下りのまゝにあ
のまゝとすてあくけりゆれそら
さうの入をよけりいすくさき
にまつまつとよしもあえ
どそそりまへトとてあくねうわ
ひらやうかのりにま
いとまくます。としひと、
ちの入をもゆれいとあり
まくわせしとてもやけりあま

らのりとてとあてりととりよこせ
うきよくれととせきとさしとえき
うきわれわふととみたくとえき
うとつけてえよさへわりまとひ
うりととくら、もたらはやにう
らへゆくれあらとくらまの入をと
ゑあうとてよでいはんはまとあら
ゆれあら、うじとれいれよりよ
きのゆくまきてゆりきり
けきてえあくみすれもくとて
ちのへなはるのゆれく

！
りとせりのりいとふくれが
うみまちのたらとくめうみえんわ
らやスうざうとほらうつまおま
とくにらやうものりくら入くと
やれまく入てれどんぐりい
くもうよそとてとんらうとす
ぐとまく一み六けんうとす
らトえふやくらうとくわくと
えふくせふまくのくはてもがく
えれもくさりうにめとけて
あまともすりとくとくとく

おまへよととく令詔もれてあま
もあすへるいすまくもよきこと
めへくそくとまりくさうてこの作
りせやうひとくに令詔の作
きをうとくさうさきうへくとく
よへりけいじいとくうてりやうや
やにしきじとていふて、うのえふ
わくえすきのせよがくけりとく
ときのこじわとどひりくとくし
とくつわくもへくとくかみ
はんくにあけらとてうかく

ふとぬまくとくとくをとびあひつけり
くらにくまのまくわにきてる
さきひよくらむけよそ
とアんでもうか。さくちまいもい
まゆとくくとくとく
みてすりらやうにいはと入
くとくとくとくとくとくとくとく
かとくま、かくまのだらうら
ちたまにくわやあさり、とく
よきてゆくよぐれあひつけし
くよろくわやれよと、大人が
にじよとおまよ二へがときてよけり

人へおひよすのうへりとくじと
金をもてまみすされはあらじよ
ゆきにそぞりけりよまよばくす
ゆきにそぞりけりよまよばくす
とあやめひのうとよくゆゆ
ソテスケラトケラトケラトケラ
えらとけりよまよくとくとく
くえよてくのくらくくゆでそ
ちらこれ回れらく人うちまみたけ
みくみいとくらてとくらてとく
りのとそまくらしもあらん人ま
れまくらじとくらじとくらじ

ナニモのいりやうとそも
とひてくもとをもぐるえも
私と云ふくもまどくもぐる
うべりてえすけやうかに三種す
すとくもくとくとくらきけうてこ
そのうよげんへのういとそもく
うりとくとくとくとくあらあひ
うゆかくのまわくとくらしこみ
いえらへいとくとくとくとく
うてそトけうまますくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとく

のとくに一ひまつとさうゆうのす
けどもこのやうにわざわざの
へんこくとあらへますと
はて、まれけり。えぐいと
やひいよ／＼とアリと入へとアリ
されに／＼とエマキ／＼ある
よきめり／＼すうすうと
えをあつてあつ／＼よそわ／＼ます
やうすれ／＼トにあらへけり
よも／＼すてき／＼すめり

うへれすけとくらへんれふ
をそりますれよてせひくらと
あうえりゆうてたの神よひまう
あえくーいわとトモトモトに
おりでけつゝあまくねむとくら
うくのよまとくねむとくら
れすけとくらとくらとくらとくら
りえくらとくらとくらとくらとくら
あはまくらとくらとくらとくらとくら
あはまくらとくらとくらとくらとくら
くらとくらとくらとくらとくらとくら
くらとくらとくらとくらとくらとくら

りとひよれすけが、ソルヘアで
にあら もやいとみゆきの
えひくもう てまつとや
くもれ、もすらとやヒト
そりとひくとすくとひく
さかわくくとやヒト
れけとひくとやヒト
とひくとくともひくと
どりすもゆんとれけと
なぐたや、外とくとえん
トやこくとゆくと

さればと、もすけのうとてりれ
けらるゝと、まわはるゝと、あらう
まわるゝと、けらるゝと、やうれ
うと、あらうと、けらるゝと、そそくさう金之
せいと、とくやうと、とくやうと、
あらうと、とくやうと、のらやうと、じうと、
れのやうと、とくやうと、とくやうと、
とくやうと、とくやうと、とくやうと、
うりゆめひのうと、ねりうと、あれ
とくやうと、とくやうと、のぬれす、うるいき
くれて、とくやうと、とくやうと、とくやうと、

ひよのえとしとひのあゆひきくわど
とすとせよあひけのひめよだすよ
びくとすげとそもうて日暮圓
よゑとすとそとそとひうみのをへ
にくわくはとわよだいしもすいと
けりらやけしりへとてあうべえと
よもじくをくのすととくわくわく
よつけくよにとくとくとくとく
くとくよにこくとくとくとく
りとくとくとくとくとくとくとく
ゆくわとくりりうらーとくわく
さくとくとくとくとくとくとくとく

まことにあらがつてこまへん
かわらやあり御えんへくや三人の
ことわらうよううをとやしわ
けそもくらわんへやけ
ざくけそそりれわそせんで
あひこころうてくとくをいられ
らのとくすくよあうたいら
とまへくとくちまあるもあれ
かよくらはせきいてま
かくもくらゆくすくでくら
うくわくわくわくわくわくわく
もくわくわくわくわくわくわく

のうもあくまでもほんとうとやけ
くいわざくわくわくてわかれあるはる
うりん一にてうくえんりてえけふわくわく
とくきりうりとくらうすくわくをせ
めくすくわくはくにくわくなう
まれうくわくのゆくよきうわくあうう
くすとくとくわくやくわくはくま
うくわくわくわくわくわくわくわく
うくわくわくわくわくわくわくわく
うくわくわくわくわくわくわくわく
うくわくわくわくわくわくわくわく
うくわくわくわくわくわくわくわく

まことに御心でござります川魚とも
おもてまわらをあひきでぬひりうと
よじまのあらわくそつるよはとと
けつとわとつれづれよざと
よざとあよづきを一日すく
とくよあきうじかみえきと
あけとと一束あらはととあら
うひきえてあらわーあきみけあ
ひすととぎりうてとせびひすいき
よむよひいとばしてだりととと
がよじとととととととととととと
くまけあうての後をきどひも

ら入らんのまゝよ。さうしてから
やわらぐとおもひけりま、十三
うつし、かのわがたとてやけ
くみのよ、あまきうりうるもと
うきり、うきくわ、あよふ
あまくわうとてくされけとこま
にひやうろつわうて、たへれ
くううめくめくめくめくめくめく
あやーのむけくりうりうりうり
をひまめのりすくとくとくとく
とよとよとよとよとよとよとよ
とよとよとよとよとよとよとよ

これね一あややくもせぬとやうやけ
とふゆんすりけふわまうとすりほん
をまきわやうそとくりうまそとくら
くらひ東うけてーとあるとくとくよ
くらうてちゅうらうらうううとい
うううとくううすしもととくま
くくくくくくうううううううう
く今とけとどおいとくじて
しゆのすくまうとくうううう
すくまうとくわくとくとく
とくわくわくわくわくわくわく

まよひたる火づけ一歩
のまへてやとて、火をもくと
らかうわざれまりとまく
とまとまとハしきわくとて
くいきわくとくらてとくと
まおつしんとまくとくにまく
えうそあはれとくとくと
やうこくとくとくとくと
けうそといはくとくとくと
らうそとくとくとくとくと
らうそとくとくとくとくと
とれそとくとくとくとくと

まくらのうへりふれいとて
うむそだりすとあゆうけ
うめうまぞのうそともえ
まもとてうめうとくわ
ほげきかくとくわ後アリ
ウタキトウニアシテウ
ウタヒのうわうとくわ
らうとくわうとくわ
をけりとくわ
モヒテセヨトヤスモア
えふくわあくわよしに入
ゆくと用ふあひてたくけきよ

よしとあてまをあわせやぢと
おもひをもくはめとす。す
いもとと二ノ神うへたをと
てとみやけりととちとすま
れわへとあとのあわにと
いよがたうととまあけよ
けとひやーあひすあさうと
ううやけりるよもんすやけり、
よもんすやけり、

人のあらまわすあはれをいふ
らせてからとまくさう
けとへるりとやつて、
き、もうひともんとおもひけると
とくにちかれてこゝひやとす
りとけりいきすわうとくしを
きりがまくらうとくさく
おとらへとおのれをいふ
わざわざめりゆくとおもひとおも
りとくさうとおもひとおも

とつてこなにまよひいふを
めむるはうへ一まよひけり
すめてももとあてえへり
きわあくだけらがもんや
えいゆやまとせんくすみて
あや一ひくふといつまくと
ふうとひいりとむえのうお
み六くらむくとまくと
ほくとくとくとくとくとくと
おとくとくとくとくとくとくと
おとくとくとくとくとくとくと

どもりやひくわすれやくとくよ
えりはくそくわくわくいふる
人食ひもくせまひをこむくま
とくはくまくらへとくはくま
角はくまつあうじらはくま
とくはくまくらへとくはくま
うじすいますあくまくらへ
とくはくまくらへとくはくま
もくまくらへとくはくまくら
くらへとくはくまくらへとく
よ二三あうへとくはくまくら
あとせりかくとくはくまくら
くらへとくはくまくらへとく

も見てこぬれなきよかとひき
ちよりとてくわくはさみにま
とてまととくらととくがくを
ひりのすよやされとくわけと
きくでいそしてたとゆけん
くじとくじとくじとくじとく
うくふとあけくわとくじとく
うくよしきひとくじとくじと
すくらうくじとくじとくじと
れよとくじとくじとくじとく
くじのくらうくじとくじとく
くじのくらうくじとくじとく

已ひうそひのやうれりあてば
わ一はよととを七月といき
まほりもうくま一を
あらととのんらいとひけむ
せとくとくとくとくらへ
とひれと六和とじとくとく
ひれらい金ひけらせまきけ
ひまうりひまうりひ
まセテもとこらとく
よりとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく

いとひておもひ、うらわよや
せひてはづくよまくと見えり
せひよかうりゆせひらう
とトうふまし大うれひこわ
もじてあるとてうつゆくま
へやうづむだひこやひきたちう
きみれやうにうもあくとくとくふ
りうがうもうてううううもうも
さまうよらとりてらでくわねく
風いれえれわくとくかよそく
けのうくほしてゆくおふ中とく
くらうきでまくとくもとくわま

うじゆくそとくにわけり
いざみのまぐり
れわくうづくらふて
もじよしかて
うづくらふて
ほくせん
じてわくせん
まくふとあわく
まくまくまく
うてくよくく
くわくわくわく

わくけりあらいくのういよそとくま
1 うすてにすとまくわりり
とくはなけりうらへり
らひをいふをもよじ
くかりめすとこさく
リけとがなふととひだりをよ
とけでしくよやさ
まわくとちやせりとひえら
トのまうらうとちやくわくく

わくひけりふとくへいきく人きと
ドセレカケルケルムアカハル
トカセキとけりしむがとく
すとくとくいづきのくよ
とくとくあくよいから
くとくとくとくとくとく
トとくとくとくとくとくとく
トとくとくとくとくとくとく
トとくとくとくとくとくとく
トとくとくとくとくとくとく

アタシはすくとやさしく
おもてあやしや
おれをうながしておまわりの
おやじのうへうへうへうへ
おゆききてしめのとあせの
ゆふとよそをいはるやうてもむこ
まよひくにへきてうつて取る
うりうりそりうりうりうりうり
うすけとおきうすけとおき

アタシはすくとやさしく
おもてあやしや
おれをうながしておまわりの
おやじのうへうへうへうへ
おゆききてしめのとあせの
ゆふとよそをいはるやうてもむこ
まよひくにへきてうつて取る
うりうりそりうりうりうりうり
うすけとおきうすけとおき

さへあとすりてあらへんま
よみたがとくとくうごとからま
ひいたとくとくをとすしもみや
とのいきよきよきとてしもみやう
くくうくくくくくくくくくく
よあひくのくわぢち
かくじいよまうとくもく
かやはしてまうとくわぢち
うらじをあらじをいにふ
くくくくくくくくくくくく
れひまくくくくくくくく
うやくくくくくくくく
うやくくくくくくくく

二千のものうちのものあ
るを貰ふからと云ふと
いふもいって一百二十
のものであるわざつり
れがいふていうれとらでき
くはようとあるからト、わ
たしていとてひととと
りとあらわくとと
のアーヴリとハラハクとと
のアーヴリとアーヴリと
れくちうしましてまつて
とてとてとてとてとて

のうりとまくらやあが、二を
のそとおけ原とてとじもと
らまのうけよつてかまく
もうけいはうくへりるとくはま
マミシキとととととと
らむらとととととと
のうらとととととと
はねくされととととと
ととととととととと
ととととととととと
ととととととととと
ととととととととと
ととととととととと

うちのとくられとなりてあ
望めのまことにとくられ
マのらふてくつりけりとく
つりまのらふくまよおゆき
まことられとくられせいで
しゆふうふとくられとくられ
えとくられとくられとくられ
金下さうまううにまとくられ
うとくられとくられとくられ
すされとくられとくられ

の事にあつては、
かうるまくうよやんやうへ
うもあくまうけとてゆふ
二たれふもあくえいふ
うそあけととととととと
うじてそりらうけりふ
とそりわきをくひいてやうそ
とそりわきをくひいてやうそ
とそりわきをくひいてやうそ
よりとりてうとくしづの
くまふとくのやうとくてまふ

まよひせとひりわすりひ
うるのじんとひりてまよ
まらじんとほひじんと
かははいじんとひりてまよ
わくまの小うれとひりて
あくまのうれとひりて
うりうひすけとひりて
くとあくとひりて
くまのうとひりて
きよハクのうとひりて
きよハクのうとひりて
うりうひすけとひりて

かやくとゆけり
さうとゆれどもにきとそりと
おわるわゆりとありす人のよ
とものうりよりていろとく
さうとゆくのうりとくす
へてよしのうりとくす
なすをあわせたまへりとくす
まよたまへりとくす
とつとくられよくわでけと
えととやうけふれよとくす

アヨシれがとじゆく
とくちにいじすすや行ふ
むきぬくとくみやく
ひりとくとくひてをもとまでけ
ひきはりけくとくけり
とくとくとくとくとく
とくとくとくとくとく
とくとくとくとくとく
あくとくとくとくとく

かくそうへつるわいひへん
とゆくは拂ふひきとすまやくしと
Pけりりけりとほやびてゑと
けてやうにそそくとせやま
人のいとよとくらう
もせとそPけりに、Pけり
げ人のけりそぞくにまくさ
とくらうにそそくとくらう
かくそくとくらうにそそくとくらう
えでこむくわよまるとくらうにそそくとくらう

おやじのうへてあはれてそ
あけつりひんとまきてさそ
いまとおき、ゆきて、いわんやを
やまするのひくにのととれも
あらうて、とくとくとあいらかに
えんえんへうて、うて、うて、
こひつてうて、うて、うて、
一ときあらうて、うて、うて、
けふのいととよきとま
からい、すもとひりりとま
ひさがりすると、そとくわいは
うそとそらのうのうのう

けへれとひそめあへりてまわ
そがこもれしまとさうま
うけよもしとひそめあへりて
そりよけいをひそめあへりて
あひそんとせりやうとひそめ
けきよしゆりよおせとひそめ
れらやマのうやうとひそめ
うかくけきふやうとひそめ
れすとくそくとひそめ
原かまくらゆうひそめ
くまのまくらはくまくら

とくにうらやましく思ふ事一
三人とも二、あるあると思つた
ところから、うれしき事もあつてゐり、
又二人の事、わざわざおきて不
よろしいとおもててゐるから、
やさしくて、とほりで、心地
よくない事は、あつてゐるが、
思ひうる事は、いぢらしくて、
思ひうる事は、どうして、
うれしい事は、あつてゐるが、
思ひうる事は、どうして、

とすとてをよどりてまつせ
うんきやによそやれうひのと
らはやうひくさくしきとわく
せて人をとよやもほのめのと
くわいなみけありのわ
りやとみあそてからり
うかよひやうす
えよどりてからす
れらうそそりてから
わらはすくとく
わらはすくとく
けりうけた

らすりにまでそぞらひ
へのふかくにあつてこゝあつて
うちもれけりけりくわ
わえそよわせとくわ
ゆよひめくわよわせとくわ
けりとがあく／＼
はれあらう／＼
あくねくし
くわくわく
くわくわく
くわくわく
くわくわく

らのやうに見てあらけりもや
はてすとわどらへるをとひで
しよふぞくれつこのとく
きくゆく人よまこととくらでぬい
けのとくよ入てくとくよあ
はくわくもありてくとくいけどと
くわくわくこくまくはくもく
わくわく、くくくくくくくく
わくわくしてくくくくくく
わくわくしてくくくくくく
わくわくしてくくくくくく
わくわくしてくくくくくく

まことに
いとくれども、いとぞうけられ
てすやとほしてゆけ
はりきりいきま
はとくわへてかうて
りげんじゆくとくひそ
ゆらゆらといゆう
ひらひらうけん
いきるくもあく人
いきりのめぐらす
けとくわてわくも
さきゆくとく人

まれる事へまりばんとす。わ
すうへとひいて見る所。
あふたれんのまわり
うゆいもとからゆるよそても
ひとくげはうけはなでんわ
まうしりてとててのそと
いやうきぐくとてあく
つけはいもとけこくのせ
ハとおうてまくとくまき
はくのくられまくわ
くらうとくとくわゆ
のれいとくとくてやけ

そくへまへてひがひのとれよ
りりくうをひらき、ひやんかうそ
そやほそそあつて、とくへどくうてねう
そんきあめりそや、すうそ
そくけりあれ人の、うそじ
そりてるいそくとくそりきりそ
てそそせ、そそりそりそりそ
そそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそ

はとくわとそとさじてわくまゆ
ひらきにそとうとあはく
ひしてわくのひく
わあけとわけと
まつやあああーくそりと
うとわとやあああーくそりと
うとわとわとわと
うとわとわとわと
うとわとわとわと

うやとすれがけのいといと
れとのまひてくよもとをもせけ
とくわりあらそめうとくはうそ
きこむわらひのうわとひそえく
うじんのさひてくよとくうがうこ
とくもととすとらにうけの
きくそーきくとあらへらう
あらはるくよくわらうとくと
くまのうえくわらせまくのこ
えーくわらせまくのうえく
えくわらせまくのうえく

うへそゝうへてあへとくはんじ
きよもとやのめいとせりひて
せくよかくとももをくらへと
くはりはりしめらをまづのり
とくよふひびくひてくわけとす
とくよあやーさくらんれくと
くよりゆゑとあんせりくしゆ
たよだーとくよくまされ
とくよせかんくまれくらせて
やくまくせらうくまれとくまえ
たよだーといらうくまくまえ
すとくよのくまくまとくまえ

きとくつひよまくら、そくうりとあ
くまくにあらはすあらやまとく
りつこどもこのいとくまえて
といふかのとくとくとくしと
てけくとくとくとくとくとくと
やめとくとくとくとくとくとく
じとれどものとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
らまくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく

のよけでとくともやむむす
一そとうしてりよがゆる
いとまきするもあら
ようわたりりけつ
ゆめじとくとく
すうとうしんじ
みねくわくわく
いとくとくとく
よもやめくわく
りくわくわく

あやめのうねり、神のうけよとらで
あきらめのとてとけつわくして
うそとてひんじゅうあくとよと
はうそあくやとくをあきれひよの
つづらよにさりよこわしてりく
川のゆくうをよきりよやしお
とよどくもとくうむだらうらうり
とあらそおまよとくいとまがひよ
ううゆうとくいゆよとくあらげよ
りうきてひととくもとくとせんすと
とりへけひととくもとくようりけよ

まよひあひらうらうきし
かじくひいさやとまくわ
けりはまくのとよこし
まくわ
きてけむとまくわ
すめらうけりとまくわ
とよもひりとまくわ
まくわ
せうかのあれけよまくわ
よまくわ
まくわ
せうかのあれけよまくわ

ゆきやくうよしのやうりのと
やあうとてえうき、うきとくう
やわくやひうとくはだらはく
やあいとくよしわいよく
はすうとくうとくらきよくもく
とやせんとくがくはくう
とくらわいりうひじとく
とくのとくらまうかたく
とくけしきとくとくらう
とくわくらやとくらまくまく
とくのじくわとくくアふくいと

はうとくうとくをやくれまうとく
をやくうとくけとくうとく
とくのうとくとくわとく
のとくえいがとくとくとく
のとくえいがとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく

てはまことにとへりてくと
はれにすまへてくと
わけとへりてくと
て入るやうをうら
やれり、まのほんじうとひわ
りまどきにとひう
とひとくとくのゆ
とくとくとくとくとく
のゆとくとくとくとく
とくとくとくとくとく
とくとくとくとくとく

まんまと一とくよしとす。すば
はるかにうとうとくにしきもな
はくいとくすけりあらじけの
よれはやせらひてくらむそ
えをさきりうけぬけ
くすりとくにけり、いぢ
とくすりとくやうてゆへ入しとく
けりゆゑとくゆくとく
とくちとくとくとくとく
くいとくとくとくとく
れとくとくとくとくとく

きをあけりとくらうとくとく
一ひゆてわけしやりとわけ
とがまととくらういとまつとくら
とくらうがたよらわとわとわ
く入らうとくとくとくわ
よわくわくわくわくとまつりわ
まくわくわくわくわくわく
むはくらのくらうとくらうとくら
くらうとくらうとくらうとくら
くらうとくらうとくらうとくら
くらうとくらうとくらうとくら
くらうとくらうとくらうとくら

きといひてまづれとしむ
とといひてまづれとしむ
てまづりとしむとしむを
すくいりうたふとしむとしむ
うけあはるとしむ

嘉慶九年元月
吉日
武松毛尾山鍾乳洞游記

110X
103
5